

## 研究評価委員会におけるコメント

第 25 回研究評価委員会（平成 22 年 3 月 26 日開催）に諮り、了承された。研究評価委員会から以下のコメントが出された。

### 多目的石炭ガス製造技術開発（EAGLE）（事後評価）

- 石炭ガス化には酸素吹、空気吹があるが、酸素吹であることによる排ガス処理、CCS への対応等の優位点が実用化の見通しの中で非常に大きなポイントである。EAGLE で採用している酸素吹ガス化技術が他の方式と比較し、どのような優位性を持ってコアのテクノロジーになるのかといったレベルの議論はさらに行うべき。特に、炭種拡大に関しては、空気吹と酸素吹で、それぞれどこまで対応できるのかが、世界を見た場合非常に大きな要素であるので、さらなる議論が必要である。

### 太陽光発電システム共通基盤技術研究開発（事後評価）

- 太陽電池は、長期に渡ってその性能、信頼性を維持することが競争力の強化につながると考えられることから、この視点での技術、評価・計測技術の開発を行い、標準化につなげることが、日本の産業競争力の強化につながる。

### 太陽光発電システム未来技術研究開発（事後評価）

- 現状の技術を改良していけば、2020 年 14 円/kWh とか、2030 年には 7 円/kWh というような数値に到達するというロードマップが実際に描けるのか否か。描けないとしたら、一点突破型のジャンプがないとコスト目標が達成できないわけであるので、さらにその議論をした上で戦略を立てていただきたい。